

中 学 校

平成25年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	2
III	研究の視点	2
IV	研究の方法	5
V	研究の内容	5
VI	効果の検証と提言	21
VII	研究の成果と今後の課題	23
	補足資料 話し合い活動の方法について	24

# 望ましい人間関係を形成するために、生徒一人ひとりが主体的に 課題解決に取り組もうとする態度を育てる学級活動の工夫

## I 研究主題設定の理由

平成 25 年度東京都教育研究員の共通テーマは、「学習指導要領に対応した授業の在り方」である。そこで今年度の教育研究員中学校特別活動部会では、まず平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申における特別活動の改善の基本方針を確認した。その基本方針から、「よりよい人間関係を築く力」や「社会に参画する態度や自治的能力の育成」、「自主的、自発的な活動」が一層重視されていることが分かった。そして学習指導要領の特別活動の目標には、新たに「人間関係」の文言が加わり、「特別活動が、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動」（中学校学習指導要領解説 特別活動編）であることが分かった。

そこで、本部会は特別活動の三つの領域、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の全ての目標に盛り込まれた「望ましい人間関係」に注目し、重点を置くことにした。そして、今年度の教育研究員の共通テーマである「授業の在り方」に基づいて特別活動を研究するに当たり、三つの領域の内「学級活動」を本研究における中心の活動とした。この学級活動で育てたい「望ましい人間関係」とは、「豊かで充実した学級生活づくりのために、生徒一人ひとりが自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係」（中学校学習指導要領解説 特別活動編）のことである。

次に、本研究に当たり、今年度の部員が所属する学校の生徒に対してアンケート調査を実施した。その結果から「自ら進んで学級活動に取り組もうとする生徒が少ない」「役割を人任せにする生徒がいる」「友達のよい面を見付けることはできるが、それを伝えることは苦手である」という現状が明らかになった。また、教師に対して実施したアンケート調査からは「学級活動において、生徒が意見を発表する場面や話し合い活動を設定している」と回答した割合は 60%程度にとどまり、「言語活動を重視した学級活動の工夫が必要である」という新たな課題が見えてきた。

さらに、特別活動には「実際の生活経験や体験活動による学習、すなわち『なすことによって学ぶ』ことを通して、全人的な人間形成を図るという意義を有している。」（中学校学習指導要領解説 特別活動編）という教育的意義がある。そこで、教師が生徒に役割を意識させ責任を果たす活動を行わせ、その経験から学ばせることは重要であると考えた。

以上の内容から、今年度の教育研究員中学校特別活動部会では、研究主題を「望ましい人間関係を形成するために、生徒一人ひとりが主体的に課題解決に取り組もうとする態度を育てる学級活動の工夫」と設定した。

## II 研究の仮説

所属校の生徒に対するアンケート調査では、自主的な活動が苦手だったり、互いを認め合うことが得意ではなかったりする実態が明らかになった望ましい人間関係とは、「豊かで充実した学級生活づくりのために、生徒一人ひとりが自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係」であることから、生徒一人ひとりがそれぞれの役割を意識し果たすことを通して、生徒が互いによさを認め発揮し合えるような認め合う学級活動の工夫が必要と考えた。

そのことから望ましい人間関係を形成するために、生徒一人ひとりが自分の役割を果たし、主体的に課題解決に取り組む態度を養えるように、認め合う学級活動を教師がいかにして工夫していくかについて、研究を行うこととした。

基礎研究より、認め合う学級活動とは、生徒一人ひとりが学級内で何らかの役割を分担し、協力し合い、それを果たしつつ互いの個性を尊重する学級活動のことである。そのためには話し合い活動を充実させることが大切であり、話し合いを通して、自分の意見をもつとともに相手の意見を尊重する態度を育てることが重要であると考えた。また、話し合いのエチケットを確認し話し合い活動を進めることにより、互いを尊重する経験を実践的に得ることができると考えた。

そして、互いが認め合い、分かり合えるような活動の場面を取り入れることを通して、生徒が自尊感情や集団への所属感を高め、実践活動の中で、協力や責任などの意義を学ぶことにより、主体的に課題解決に取り組む態度を養うこととなると考えた。また、自分と違う意見をもつ他者と折り合いを付け高め合っていけるような学級活動の工夫を教師が行うことで、望ましい人間関係を形成できると考えた。

以上のことから、本研究の仮説を次のように設定した。

### 【研究仮説】

生徒一人ひとりが役割を果たし、認め合う学級活動の工夫を教師が行い、生徒が主体的に課題解決に取り組む態度を養うことで、生徒は望ましい人間関係を形成できるであろう。

## III 研究の視点

本研究は、特別活動の学級活動の目標「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる」にある「望ましい人間関係を形成」するために、どのような学級活動の工夫が必要なのかを研究するものである。研究仮説で述べたとおり、望ましい人間関係を形成するためには「生徒一人ひとりが役割を意識し、認め合う学級活動の工夫を教師が行う」ことが必要である。そのため、次の視点で本研究を行っていくことにした。

## 1 生徒一人ひとりに役割を意識させる学級活動の工夫

生徒一人ひとりに役割を意識させるためには、生徒全員に役割をもたせるような学級活動の工夫を教師が行う必要がある。そのため、3つの工夫を検討した。

### (1) 班での話し合い活動の工夫

普段の生活班での話し合い活動においても工夫が必要である。生活班だけでの話し合い活動においては、積極的に話す生徒とそうでない生徒がおり、必ずしも生徒一人ひとりに役割があるとはいえない。そのため、生活班と違うメンバーで構成された第2の班による話し合い活動を行わせる。第2の班では、それぞれの班員に元の生活班での意見を代表として伝えさせる。それにより、班員には第2の班において必ず意見を発表する役割をもたせる。

### (2) 発表活動の工夫

生徒一人ひとりが第2の班において発表を行う他に、学級全体に対する発表活動を生活班ごとに行わせる。そして、この発表活動を班員全員で分担して行うことで、一人ひとりに役割をもたせ、それを果たす取組とする。

### (3) 学級活動後も生徒の役割を継続させる工夫

学級活動で話し合うテーマは、その後も継続して取り組める内容にする。例えば、合唱コンクールに向けた取組の中で大切にしたいことは何か、定期考査に向けた不得意教科の克服の方法は何か、などである。話し合い活動を行う中で、生徒は自分が果たすべき役割を意識し、それを基に継続して取り組んでいくことにつながる。

## 2 役割を果たしたことを認め合う学級活動の工夫

### (1) 話し合い活動の工夫

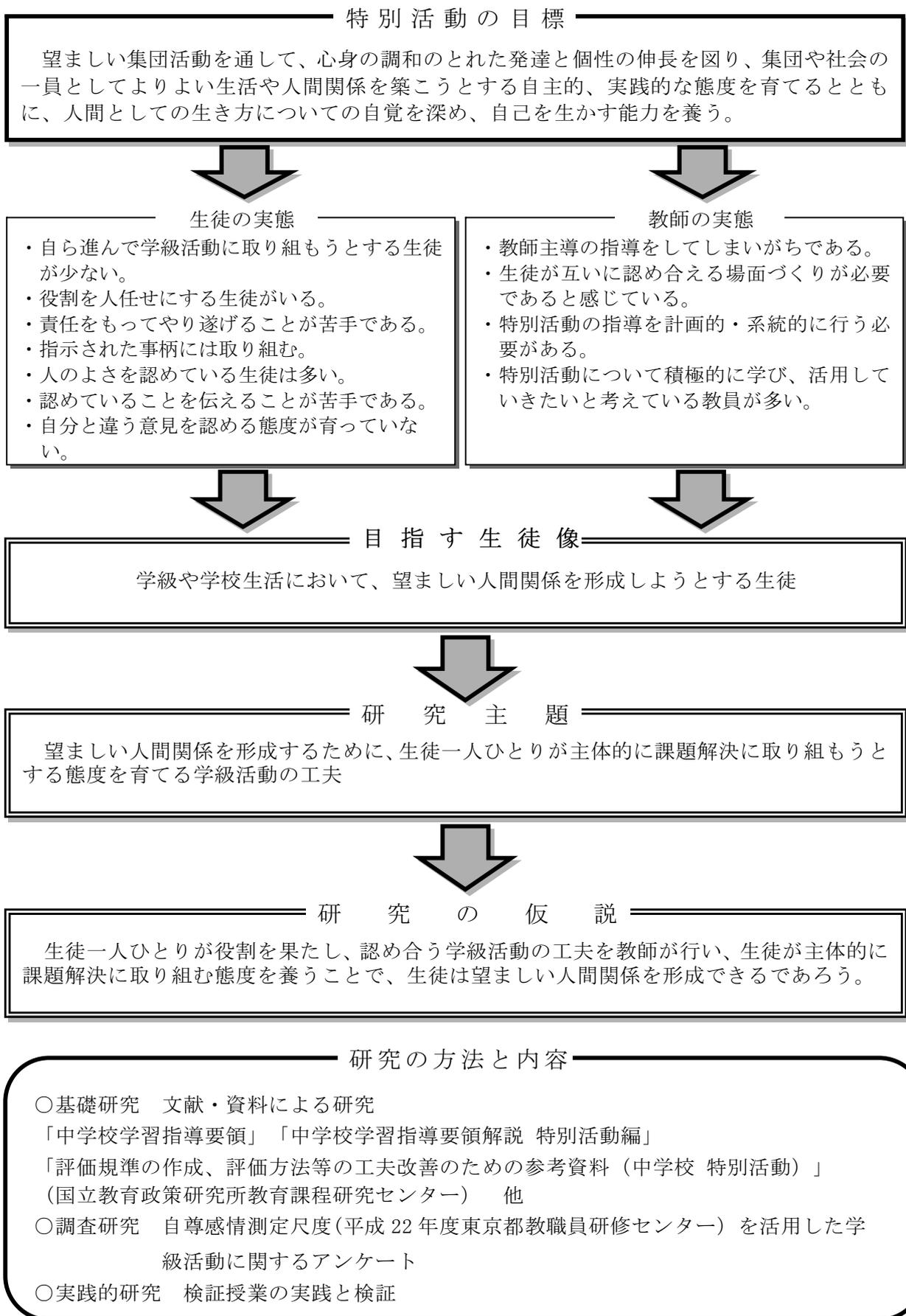
班のメンバーを入れ替えて実施する話し合い活動では、第2の班での話し合い活動の後、生徒は元の生活班に戻って話し合った内容を報告する役割を担う。これにより、生徒一人ひとりが自分の生活班のために役割を果たすとともに、他の班員から自分の取組を認めてもらう活動につなげることができる。

### (2) ワークシートや振り返りシートの活用

話し合い活動の後、ワークシートや振り返りシートに意見や感想などを記入させ、それを教室に掲示・プリント配布する。これにより、生徒の自己理解・他者理解をさらに充実させ、互いに認め合う態度を養う。

以上の視点で検証授業を行う。生徒に対しては、事前と事後に自尊感情測定尺度（平成22年度東京都教職員研修センター）の一部を活用したアンケート調査を実施する。アンケート調査の集計結果から、生徒の変容を確認し、本研究の主題に迫っていく。

## 研究構想図



#### IV 研究の方法

##### 1 基礎研究

「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 特別活動）」等から、文献研究を行った。

##### 2 調査研究

部員が所属する学校の生徒を対象に、「学級活動に関するアンケート調査」を実施した。併せて、同校の教師を対象に、「特別活動に関するアンケート調査」を実施し、学校における特別活動の実態について把握した。

##### 3 実践的研究

学級活動の検証授業に取り組み、その成果を分析した。事前・事後にアンケートを実施し生徒の変容を確認した。

#### V 研究の内容

##### 1 「学級活動に関するアンケート」調査

本研究では、自尊感情測定尺度(平成 22 年度東京都教職員研修センター)を基に、平成 23 年度の特別活動の教育研究員が開発した他者を尊重する測定尺度と、平成 24 年度の特別活動の研究において使用したアンケート項目を参考に、「学級活動に関するアンケート」(表 1)を作成した。本アンケート調査は教員が所属する学校 5 校の生徒 1,637 名を対象に行った。

検証授業後に同じアンケート調査を実施することで、生徒の変容を把握することとした。

検証授業前の調査結果の集計は、図 1 のとおりである。

表 1 「学級活動に関するアンケート」(生徒用)

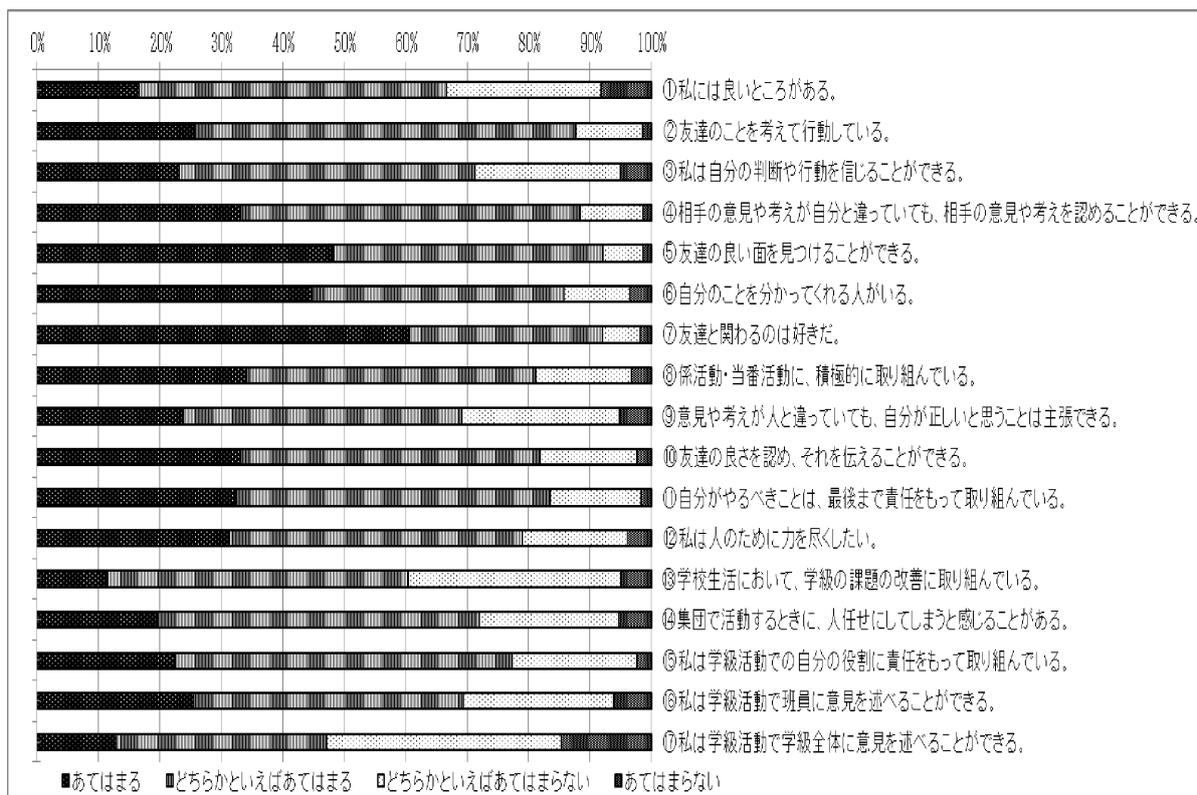
学級活動に関するアンケート

これは特別活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを 1 つ選び、数字に○をつけてください。アンケートに出てくる『学級活動』とは、時間割の中の『学活』のことを指します。

		おて はまる	どちらか といえは あてはま る	どちらか といえは あてはま らない	あては まりな い
①	私にはよいところがある。	4	3	2	1
②	友達のことを考えて行動している。	4	3	2	1
③	私は自分の判断や行動を信じていることができる。	4	3	2	1
④	相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4	3	2	1
⑤	友達のよい面を見つけることができる。	4	3	2	1
⑥	自分のことを分かってくれる人がいる。	4	3	2	1
⑦	友達と関わるのは好きだ。	4	3	2	1
⑧	係活動・当番活動に、積極的に取り組んでいる。	4	3	2	1
⑨	意見や考えが人と違っていても、自分が正しいと思うことは主張できる。	4	3	2	1
⑩	友達のよさを認め、それを伝えることができる。	4	3	2	1
⑪	自分がやるべきことは、最後まで責任をもって取り組んでいる。	4	3	2	1
⑫	私は人のために力を尽くしたい。	4	3	2	1
⑬	学校生活において、学級の課題の改善に取り組んでいる。	4	3	2	1
⑭	集団で活動するときに、人任せにしてしまうと感じることもある。	4	3	2	1
⑮	私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	4	3	2	1
⑯	私は学級活動で班員に意見を述べるすることができる。	4	3	2	1
⑰	私は学級活動で学級全体に意見を述べるすることができる。	4	3	2	1

年 組 番 氏名

図1 検証授業前の調査結果集計



全体としては、自分のことと友達の間を問う項目⑤⑥⑦の結果から、友達との関わりは良好な様子が見えてくる。一方、自尊心や自主性を問う項目①⑬⑰の結果から、消極的な姿勢の生徒や自己肯定感の乏しい生徒が少なからず存在することが分かる。

アンケート項目⑧「係活動・当番活動に、積極的に取り組んでいる。」では 81%、項目⑪「自分がやるべきことは、最後まで責任をもって取り組んでいる。」では 83%の生徒が肯定的な回答をしている。(肯定的な回答とは「4 あてはまる」または「3 どちらかというにあてはまる」と回答した割合。以下、肯定的な回答という。具体的には⑧の場合であれば、係活動・当番活動に積極的に取り組んでいる割合を指す。)

アンケート項目⑮「私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。」では、22%の生徒が否定的な回答をしている。

このことから、生徒は係活動や当番活動など、やるべきことがわかっている活動に対しては責任をもって行動できることが分かる。しかし、項目⑭「集団で活動するときに、人任せにしてしまうと感ずることがある。」では、およそ 72%の生徒が人任せにしていると回答している。学校生活において、個々の役割を意識させ、認め合う活動ができるような指導の工夫が必要と考える。

また、項目⑤「友達のよい面を見つけることができる。」では 92%が肯定的な回答をしているが、項目⑩「友達のよさを認め、それを伝えることができる。」では肯定的な回答が 81%に留まっている。このことから、実際に自分の思いを友達に伝えることが苦手なところがあるとされるので、認め合う場面を教師が設定していくことが必要である。

自尊心に関わる項目は①③⑥⑨⑫⑮である。①は自己評価・自己受容の観点、⑥⑫⑮は

他者との関係の中の自己の観点、③⑨は自己主張・自己決定の観点となっている。特に項目①③⑨において肯定的な回答が他の項目に比べて低い傾向にあり、自分に自信がなく、自分の考えをうまく伝えられなかったり、他者の言動に流されやすかったりする傾向が表れている。従って、自分の判断や行動に自信をもたせ、自分のよさが感じられる場面や経験を増やしていくことが大切である。

以上のことから生徒の実態として、自ら進んで学級活動に取り組もうとする生徒が少なく、友達のよい面を見付けることはできるがそれを伝えることは苦手であることが分かった。

## 2 教師の特別活動に関する実態調査

部員が所属する学校5校の教師を対象に「特別活動に関するアンケート」(表2)を実施し、69名から回答を得ることができた。

項目⑤「学級活動において、生徒が互いに認め合うような場面作りが必要だと思いますか。」に関して、97%が必要と思っている。しかし、項目⑬「学級活動において、生徒が意見を発表する時間を積極的に設けていますか。」では71%、項目⑭「学級活動において、生徒の話合い活動を積極的に取り入れていますか。」では68%は取り入れているものの、具体的な指導においては、生徒の発表の場や話合い活動のより一層の充実が求められる。

また、項目⑫「生徒は指示されたこと以外にも積極的に取り組もうとしていると感じますか。」という問いには、否定的な回答が48%

であることから、現状として、指示された役割がないと、学級活動等に積極的に取り組めない生徒が多いと言える。生徒に自信をもたせること、生徒が自分の意見を全体に伝えられる

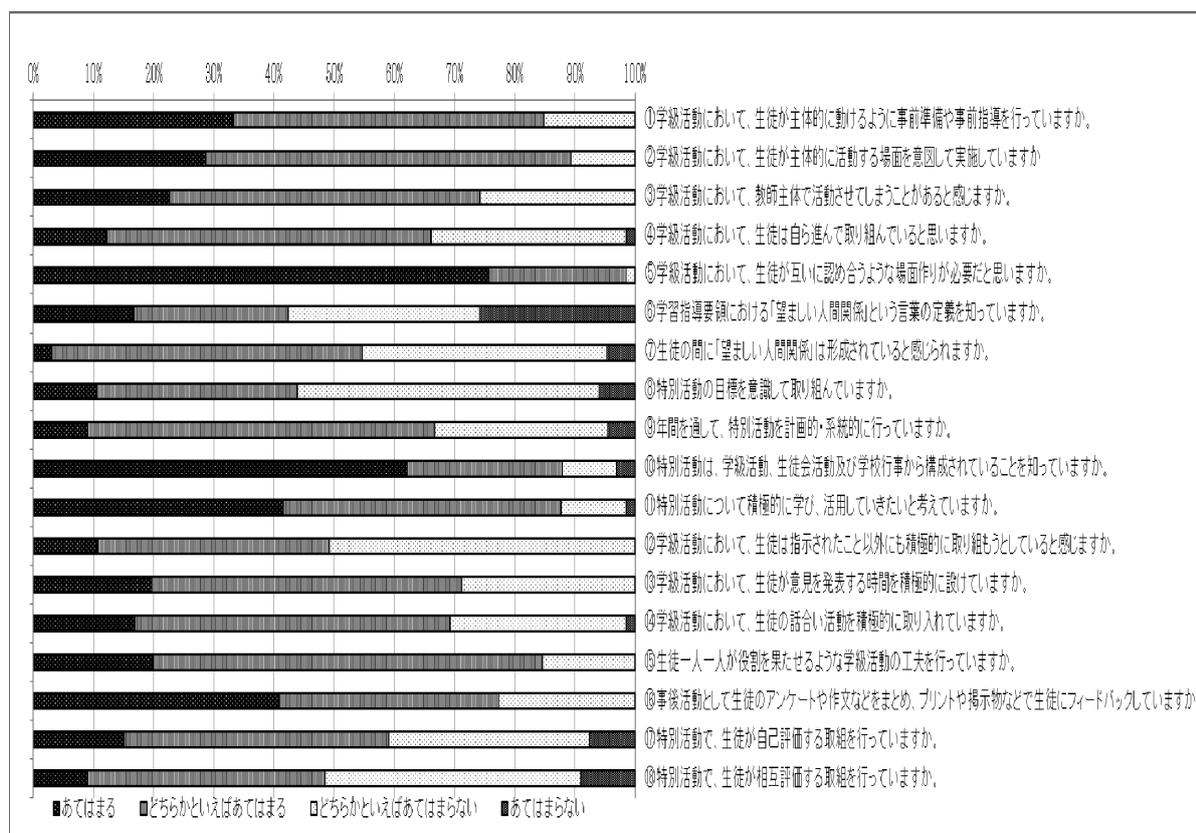
表2 「特別活動に関するアンケート」(教師用)

特別活動に関するアンケート		回答の傾向			
		4	3	2	1
①	学級活動において、生徒が主体的に動けるように事前準備や事前指導を行っていますか。	4	3	2	1
②	学級活動において、生徒が主体的に活動する場を意図して実施していますか。	4	3	2	1
③	学級活動において、教師主体で活動させてしまうことがあると感じますか。	4	3	2	1
④	学級活動において、生徒は自ら進んで取り組んでいると思いますか。	4	3	2	1
⑤	学級活動において、生徒が互いに認め合うような場面作りが必要だと思いますか。	4	3	2	1
⑥	学習指導要領における「望ましい人間関係」という言葉の定義を知っていますか。	4	3	2	1
⑦	生徒の間に「望ましい人間関係」は形成されていると感じられますか。	4	3	2	1
⑧	特別活動の目標を意識して取り組んでいますか。	4	3	2	1
⑨	年間を通して、特別活動を計画的・系統的に行っていますか。	4	3	2	1
⑩	特別活動は、学級活動、生徒会活動及び学校行事から構成されていることを知っていますか。	4	3	2	1
⑪	特別活動について積極的に学び、活用していきたいと考えていますか。	4	3	2	1
⑫	学級活動において、生徒は指示されたこと以外にも積極的に取り組もうとしていると感じますか。	4	3	2	1
⑬	学級活動において、生徒が意見を発表する時間を積極的に設けていますか。	4	3	2	1
⑭	学級活動において、生徒の話合い活動を積極的に取り入れていますか。	4	3	2	1
⑮	生徒一人一人が役割を果たせるような学級活動の工夫を行っていますか。	4	3	2	1
⑯	事後活動として生徒のアンケートや作文などをまとめ、プリントや掲示物などで生徒にフィードバックしていますか。	4	3	2	1
⑰	特別活動で、生徒が自己評価する取組を行っていますか。	4	3	2	1
⑱	特別活動で、生徒が相互評価する取組を行っていますか。	4	3	2	1

こと等への指導の工夫が必要である。

さらに項目⑩「事後活動として生徒のアンケートや作文をまとめ、プリントや掲示物などで生徒にフィードバックしていますか。」では肯定的な回答の割合（74%）が高いものの、項目⑪「特別活動で、生徒が自己評価する取組を行っていますか。」、項目⑫「特別活動で、生徒が相互評価する取組を行っていますか。」では肯定的な回答の割合（⑪57%、⑫46%）が高くはないので、自己評価、相互評価を的確にとり入れ、認め合う活動を行っていくことが重要である。

図2 教師の教育活動に関する実態調査結果集計



### 3 検証授業(1)

- (1) 題材 「目指せ金賞！合唱コンクール ～ 学級の和（ハーモニー）を創ろう ～」  
(第2学年)

内容 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

#### (2) 題材設定の理由

合唱コンクールは、学級全員が参加する活動であり、本研究を行うに当たり適切な題材と考えた。学級の和（ハーモニー）を創り金賞を受賞するという目標を設定し、放課後等の時間を活用し、各パートの練習や全体練習を行う。生徒が話し合い活動で検討した内容を踏まえ、一人ひとりが役割を果たすことを意識し、仲間を認め合いながら生徒が主体的に目標に向けて取り組むことで望ましい人間関係が形成され则认为、本題材を設定した。

#### (3) 学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

#### (4) 指導の過程

##### ア 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
10月2日(水)	◇合唱リーダーズ会議 ・各パートリーダーや実行委員に、学級全体で合唱コンクールに向けた話し合い活動を実施することを伝える。 ・合唱リーダーズの役割を確認し、本時の話し合い活動の趣旨や流れを確認する。	・合唱リーダーズを中心として話し合い活動ができるように、適宜補足説明をする。	【関心・意欲・態度】 ・パートリーダーとして、合唱コンクールに主体的に取り組む意欲的にパートをまとめようとしている。 〔観察〕

##### イ 本時の指導と生徒の活動

###### (ア) 本時の活動テーマ

「学級の和（ハーモニー）を創るために『大切なこと』を考えよう」

###### (イ) 本時のねらい

学級の和（ハーモニー）を創り、合唱コンクールで金賞を取るために、放課後練習や授業での練習の際、生徒一人ひとりが合唱パートや学級集団の一員として「大切なこと」は何かということを議題に生活班で話し合い、互いの考えを深める。生活班による話し合い活動では、自分の意見を述べたり、第2の班の生徒から聞いた意見や考えを元の班員に伝えたりすることで、生徒一人ひとりが役割を果たせるようにする。この話し合い活動により、一人ひとりが合唱コンクールにおける役割を意識し、互いの思いを共有しながら学級が一つにまとまっていくように指導する。

(ウ) 教師の指導計画

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 8分	1 教師の話（諸連絡） ・本時の議題発表と確認 ・話し合い活動のエチケットの説明	・話し合い活動における※（注）エチケットについて説明し確認する。	
活動の展開 34分	2 ◇話し合い活動① ・生活班で合唱コンクール本番に向けて「大切なこと」は何かを議題に話し合い活動を行う。 ・各班に模造紙を配布し、話し合いの中で挙げたアイディア等を自由に記入させる。  ◇話し合い活動② ・メンバーの組み合わせを変え、同じ議題で話し合い活動を行う。 ・班長はテーブルに残り、新メンバーに生活班で話し合った内容を伝える。 ・新メンバーも前の班で話し合った内容を伝え、互いに話し合いを深める。  ◇話し合い活動③ ・元の生活班に戻って、他の班で話し合った内容を報告する。 ・各合唱パートや学級集団の一員として「大切なこと」についてまとめる。	・1年生の時の練習や本番の場面を想起したり、自分の役割を考えたり、様々な角度から話し合うように助言する。 ・生活班の中で一人ひとりが主体的に考えたり、意見を述べたりできるように助言する。 ・模造紙への書き込みを奨励し、話し合いの補助資料とする。 ・話し合い活動のエチケットが守られているか確認する。 ・次の班に移った時に、班で話し合った意見等を的確に伝えられるようにする。 ・元の生活班に戻り、話し合いの内容を各自の責任で報告することが、自分の役割を果たすことになることを助言する。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・活動テーマ（議題）に関心をもち、意欲的に自分の考えを伝えたり、まとめたりしようとしている。 〔観察〕 〔ワークシート〕  <b>【思考・判断・実践】</b> ・互いの意見や考えを認め合いながら、意見や考えを述べたり、まとめたりしようとしている。 〔観察〕 〔ワークシート〕
活動のまとめ 8分	3 自己評価、感想の記入 ◇本時の活動の自己評価を振り返りカードに記入する。 ・話し合いによって互いの思いを共有できたかを確認する。今後の練習活動において自分が取り組むべきことを考えさせる。  4 教師の話（諸連絡、講評）	・本時の活動で、意見や考えを主体的に述べることができたか、互いを認め合いながら取り組むことができたかなど具体的に振り返らせる。 ・話し合い活動を通して挙げた意見を参考にして考えさせる。	<b>【集団活動や生活についての知識・理解】</b> ・合唱コンクールに向けて取り組むべきことを自覚し、学級集団の一員として充実した集団生活を築くことの意義について理解している。 〔振り返りカード〕

※（注）エチケットについて

○以下の項目について、話し合いの前に生徒に確認する。

- ・話し合いを楽しむ。
- ・短く簡潔に話す。
- ・相手の話をきちんと聞く。
- ・話し合いのテーマを忘れない。
- ・相手に質問して話題を広げる。
- ・相手の意見を最初から否定せず、受け止める。

## ウ 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月8日(火) ～25日(金)	◇合唱コンクール練習開始 ・前時の話し合い活動で検討した、各合唱パートや学級集団の一員として「大切なこと」は何かを基に、合唱コンクールの学級目標を立てる。 ・話し合い活動の決定事項を基に、練習計画を実践する。 ・これまでの活動の成果を振り返り、目標の達成に向けて活動する。	・話し合い活動での決定事項を実践しているかどうかを観察し、適宜、助言や支援をする。 ・生徒の活動意欲が高まるように助言する。	【思考・判断・実践】 ・目標の実現に向け、互いに認め合いながら決定事項を実践している。 [観察]
10月26日(土)	◇合唱コンクール ・これまでの話し合い活動や放課後等の練習の成果を発揮し、目標達成に向けて歌う。	・これまでの取組を想起させ、生徒の活動意欲が高まるように助言する。	
10月28日(月)	◇振り返り活動・事後意識調査 ・これまでの取組や合唱コンクールについて「振り返りカード」に記入し、自己の成果や課題を通して学んだことや学級での取組を確認する。	・生徒一人ひとりの活躍、合唱リーダーズの活躍、学級集団としてのまとまりなど、練習や本番で具体的に取組んだ活動について互いに賞賛するように助言する。 ・成果や課題を「振り返りカード」に具体的に記入するよう助言する。	【知識・理解】 ・合唱コンクールの目標達成に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。 [振り返りカード]

## (5) 検証授業の成果

### ア 検証の視点

今回の授業を計画するに当たり、事前に学級活動に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査から、本学級では以下の特徴が見られた。

以下の項目では、本学級と本校全生徒との比較において肯定的な回答の割合が低かった。

- 「相手の意見や考え方が自分と違っていても、相手の意見や考え方を認めることができる」  
(本校全生徒 92%、本学級 83%)
- 「友達のよい面を見つけることができる」  
(本校全生徒 92%、本学級 83%)
- 「自分のことをわかってくれる人がいる」  
(本校全生徒 89%、本学級 77%)
- 「学校生活において、学級の課題の改善に取り組んでいる」  
(本校全生徒 66%、本学級 64%)
- 「私は学級活動で学級全体に意見を述べるができる」  
(本校全生徒 54%、本学級 50%)

※数値は「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値

この結果から、相手の意見や考え方を認めたり、よい面を見付けたりするだけでなく、それを相手に伝えたり認め合ったりする機会を設定する必要があると分析した。そして、学級活動の時間等を通して、生徒一人ひとりが集団の中で自分の役割を果たし、その過程や成果を互いに認め合うことにより生徒は達成感を味わい、望ましい人間関係を形成することにつながると考えた。そこで今回は、以下の視点を検証するために授業を行った。

- 話し合い活動を通して、集団において生徒一人ひとりが自分の役割を意識しそれを主体的に果たすことと、互いに思いや考えを共有し認め合うことで、望ましい人間関係を形成していくことを検証する。
- その後の認め合う学級活動を教師が工夫して意図的計画的に設定し、実践していく。

## イ 生徒の変容

検証授業と合唱コンクールの取組を終えてから事後アンケート調査を実施し、事前のアンケート調査と比較したところ、以下の結果が得られた。

- 「相手の意見や考え方が自分と違っていても、相手の意見や考え方を認めることができる」と回答した生徒の割合が増えた。  
(本校全生徒 92%、本学級事前 83% → 事後 85%)
  - 「友達の良い面を見つけることができる」と回答した生徒の割合が増えた。  
(本校全生徒 92%、本学級事前 83% → 事後 88%)
  - 「自分のことをわかってくれる人がいる」と回答した生徒の割合が増えた。  
(本校全生徒 89%、本学級事前 77% → 事後 79%)
  - 「学校生活において、学級の課題の改善に取り組んでいる」と回答した生徒の割合が増えた。  
(本校全生徒 66%、本学級事前 64% → 事後 74%)
  - 「集団で活動するときに、人任せにしてしまうと感じることもある」と回答した生徒の割合が減った。  
(本校全生徒 68%、本学級事前 77% → 事後 16%)
  - 「私は学級活動で学級全体に意見を述べるができる」と回答した生徒の割合が増えた。  
(本校全生徒 66%、本学級事前 64% → 事後 74%)
- ※数値は「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値

検証授業を実施するに当たり、事前に文化祭実行委員、パートリーダー、学級委員から成る合唱リーダーズを構成し、合唱コンクールでの役割を意識させる会議を行った。このことは、担任主導ではなく、生徒が主体的に今後の合唱練習を運営していくという姿勢とリーダーとしての役割を自覚し、人任せにせず、自分の役割を果たそうとする態度や主体的に課題解決を図ろうとする態度を形成する契機となった。

本時の話し合い活動では、各リーダーが問題提起をしたり、他の人の意見をまとめたりする姿が見られた。また、日頃の生活や学級活動等で話し合いに積極的に参加していない生徒も、元の班で得た情報を伝えるという明確な役割があったため、話し合い活動に集中して取り組んだ。この活動においても生徒が課題解決に主体的に取り組もうとする態度が見られた。また、班でメモとして使用した模造紙を教室掲示し、練習時に互いが考えた練習アイデアや大切なことをいつでも共有できるような環境を設定したのは、練習意欲や集中を高めるためには効果的であった。

合唱コンクールの練習期間中に検証授業の事後指導として実施した認め合う学級活動では、生徒全員がこれまでの練習の成果や課題、合唱コンクールの目標を振り返るとともに、合唱リーダーズや級友に対してのアドバイスや手紙を記したワークシートを教室掲示した。この取組は、リーダーが自らの役割を再確認するとともに、生徒が互いを認め合い、相互理解を深めることにもつながった。

検証授業の事後活動として、合唱コンクールの取組を通して生徒全員のよかったところを互いにコメントに書いて渡し、そのコメントに対して一人ひとりお礼の言葉を述べるという活動を合唱コンクール後に実施した。リーダーが役割を果たし学級を主体的にまとめてきたことに対するねぎらいの言葉や、一人ひとりの努力に対して各リーダーから感謝の言葉が伝えられた。

また、合唱コンクール後に実施した振り返りのワークシートでは、生徒一人ひとりが合唱コンクールの練習に主体的に取り組み、練習を通して他者の意見を参考にしたり、互いに認め合ったりしたということが確認できた。

以上のことから、検証授業で取り組んだ話し合い活動を基に、一人ひとりが役割を意識して練習し、合唱コンクール期間中に主体的にその役割を果たし、事後活動も含めた認め合う学級活動を通して互いを認め合うことで、望ましい人間関係を形成しようとする態度が向上したと考えられる。

以下に、合唱コンクール終了後の振り返り活動で取り組んだワークシートより、生徒の感想の一部抜粋を記載する。

- ・リーダーズとして頑張った！3年生のときも今年より頑張りたい。
- ・最初の方の練習はまとまらずやる気をなくしかけていたが、本番が近づくとも一人ひとりが集中していき、まとまりのあるクラスになれた。
- ・頑張ったことは、みんなで一所懸命歌うように注意を呼びかけられたことです。
- ・練習で頑張れたことは、歌詞を忘れないようにしたこと。改善点は練習で「静かに」と言わなくても気付くようにしたらいいと思った。
- ・意見を交換してみんなで話し合っって目標を決めて練習できたのがよかった。
- ・私はパートリーダーではないけれど金賞を取るためにパートリーダーと同じように努力しました。
- ・始めはみんなバラバラでなかなかまとめられなかったと思う。でも、みんなの意識が高まるたびにどんどん団結力が強くなり一つになれたことが一番嬉しい。
- ・ソプラノがつぶれないように声を出して音程が合うように頑張りました。
- ・歌の強弱や語尾の伸ばし方などに気を付けて歌えるように頑張った。
- ・最初に話し合いを行って合唱の練習をしたので、計画が頭の中である程度できたから、練習に集中できた。
- ・クラス全員が全力で練習する意味、練習で一つになる大切さ、そんなことがクラス全員で確認できたと思う。

(6) 他校での検証授業の成果

同様の話し合い活動を取り入れた検証授業を別の学校（第1学年）で2回行った。1回目の話し合いのテーマは「不得意教科克服の方法」、2回目は「音楽祭に向けての練習法」として話し合い活動を行った。

ア 検証の視点

今回の授業を計画するに当たり、事前に学級活動に関するアンケートを実施した。アンケート調査から、本学級では以下の特徴がみられた。

- 「友達のよい面を見つけることができる」割合は、他クラスより低い。  
(1学年 80%、本学級 66%)
  - 「友達と関わるのが好きだ」の割合は、他クラスよりも低い。  
(1学年 84%、本学級 72%)
  - 「自分がやるべきことは、最後まで責任をもって取り組んでいる」割合は、他クラスより低い。(1学年 76%、本学級 62%)
  - 「私は人のために力を尽くしたい」割合は、他クラスより低い。  
(1学年 69%、本学級 49%)
  - 「学校生活において、学級の課題の改善に取り組んでいる」割合は、他クラスより低い。  
(1学年 49%、本学級 36%)
- ※数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値

アンケート結果から、友達との関わりが苦手な生徒が他のクラスより多い。そのため、人のために力を尽くすことや学級でまとまって活動することに関心が薄いと考えられる。そこで、生徒に役割を意識させて話し合う機会を意図的に作ることで、責任をもつことや人のために力を尽くすことの大切さに気付かせることができ、話し合う機会を通して友達のよさを認め合うことで、望ましい人間関係を形成できると考え授業を行った。

イ 生徒の変容 (事前→1回目の事後→2回目の事後)

- 「友達のよい面を見つけることができる」割合は、13ポイント増加した。  
(1学年 80%、本学級 66% → 72% → 79%)
  - 「友達と関わるのが好きだ」の割合は、11ポイント増加した。  
(1学年 84%、本学級 72% → 90% → 83%)
  - 「自分がやるべきことは、最後まで責任をもって取り組んでいる」割合は、11ポイント増加した。(1学年 76%、本学級 62% → 79% → 73%)
  - 「私は人のために力を尽くしたい」割合は、10ポイント増加した。  
(1学年 69%、本学級 49% → 55% → 59%)
  - 「学校生活において、学級の課題の改善に取り組んでいる」割合は、15ポイント増加した。  
(1学年 49%、本学級 36% → 44% → 51%)
- ※数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値

今回の話し合い活動を通して、生徒は普段あまり話をしない友達に対しても発言をすることができており、話すことが苦手な生徒も、模造紙を活用することで自分の意思を伝えることができていた。また、日頃の生活や学級活動等で話し合いに積極的に参加していない生徒も、元の班で得た情報を伝えることを役割として話し合い活動に参加することができた。

また、項目⑫「私は人のために力を尽くしたい」(49%→55%→59%)の割合の変化から、学年の割合には及ばないまでも、人のために行動することに興味をもち始めたことが分かる。生活班の話し合いにおいて、メンバーを組み変えることで、役割をもって話し合いをする意識をもち、集団の一員としての自覚が高くなったと考えられる。そして、項目⑭「集団で活動するとき、人任せにしてしまうと感ずることがある」(76%→76%→58%)においては、2回目の検証授業で大幅に減少することができた。行事に向けた活動で人任せにしないで参加できたことは、本学級においては大きな変化と捉えることができる。

今回の2回の検証授業を通して、生徒に役割をもたせた話し合い活動をすることで、生徒が主体的に課題解決に取り組み、望ましい人間関係を形成できることが分かった。

以下、生徒の感想の一部を抜粋した。

①「不得意教科克服の方法」

- ・いろいろな人の勉強法を聞くことができてよかった。
- ・数学は、やったことのない勉強法が多く見つかった。
- ・今までは提出物だけやっていたけど、勉強法が分かったから実行していきたい。
- ・みんなそれぞれの意見が出て、おもしろかった。
- ・今までやっている勉強法にプラスして、他の人が行っている勉強法を上手に生かしていきたい。
- ・班員だけでなく、他の班員の勉強方法が知れて、私もやってみようと思った。
- ・1枚の紙に書くことで、考えが比較しやすいと思った。
- ・勉強の仕方、前よりももっと覚えやすいやり方がわかった。

②「音楽祭に向けての練習法」

- ・音楽祭で金賞を取るカギをたくさん知りました。
- ・他人の意見を聞いて、自分が考えなかったことに気づき、さらにそこから気付くものがあり、すごくためになりました。
- ・音楽祭を成功させるために、いろいろな人の意見を聞くことができた。
- ・友達からのアドバイスや意見をうまく生かして、もっと練習方法をよくしていきたい。
- ・みんなの意見を聞いて、どこをどうやればいいのかわかった。自分の意見を班の人にしっかり伝えられてよかった。
- ・最初は全然意見が出なかったけれど、後からいっぱい出た。他の班の意見を持ち帰ることができた。

#### 4 検証授業（2）

##### (1) 題材 「学級での役割（委員会・係）を見直そう！」（第1学年）

内容 （1） イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理

##### (2) 題材設定の理由

生徒にとって学級は、学校生活を送る上での基礎的な生活の場である。生徒は学級内での生活上の課題を適切に解決しながら、学級生活の充実・向上を主体的に図ることが大切である。入学して7ヶ月が過ぎ、仲間のよい点、改善してほしい点、学級のよい点や課題を互いに理解し始めてきている。生徒一人ひとりが自分の役割を果たし、仲間と認め合う学級活動を通して、主体的に課題解決に取り組むことで望ましい人間関係を形成させたいと考え、本題材を設定した。

##### (3) 学級活動（1）の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

##### (4) 指導の過程

###### ア 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
10月30日（水）	◇学級委員、班長会議 ・現在の学級について情報収集と課題の確認を行う。	・学級委員、班長が中心として話し合い活動ができるように、必要に応じて補足説明を行う。	【関心・意欲・態度】 ・学級生活における様々な問題に関心をもち、改善の必要性を感じている。 〔観察〕
10月31日（木）	◇クラス評議会（委員・班長） ・クラス総会に向けての準備、流れの確認、目的を意識させる。	・学級生活を見直し、よりよい生活環境を生徒自らが考える機会となるよう、当日の流れなどを確認し、活動の見通しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう、自主的・自立的に準備を進めようとしている。 〔観察〕
11月1日（金）	◇クラス総会 ・それぞれの委員会や係の活動内容や役割を確認し、自分が取り組むべきことを考える。	・学級生活を見直し、よりよい生活環境を生徒自らが考える機会とする。	【関心・意欲・態度】 ・学級生活における様々な問題に関心をもち、改善の必要性を感じている。 〔観察〕
11月7日（木）	◇学級委員、班長会議 ・話し合い活動に向けた準備、流れの確認、目的を意識させる。	・生徒の考えを聞きながら、当日の流れなどを確認、検討し、活動の見通しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動に向けて考えが深まるよう、活動の準備を進めようとしている。 〔観察〕

イ 本時の指導の指導と生徒の活動

(ア) 本時の活動テーマ

「学級での役割（委員会・係）を見直そう！」

(イ) 本時のねらい

生徒一人ひとりが自分の果たすべき役割を自覚し、責任をもって活動しようとする態度を高めさせる。また、互いに認め合う学級活動を行うことによって、自分の果たすべき役割に主体的に取り組もうとする意識を高め、望ましい人間関係を形成させる。

(ウ) 教師の指導計画

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 8分	1 開会の言葉（学級委員） 2 議題の発表（学級委員） 3 提案理由の説明（学級委員） 4 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の議題の提案理由についての補足説明をする。</li> <li>・話し合い活動におけるエチケットを説明し確認する。</li> </ul>	
活動の展開 36分	5 ◇話し合い活動 ・生活班で、学級内の委員会・係の活動の「よいところ」「課題」「提案」をテーマに話し合い活動を行う。 ・各班にワークシートを配布し、話し合いで出てきたキーワード等を記入する。  6 ◇ポスターの作成 ・プレゼンテーション用のポスター（画用紙）に「よいところ」「課題」「提案」をそれぞれ簡潔に記入し作成する。  7 ◇プレゼンテーション 司会（学級委員） ・生活班ごとにポスターを用いてプレゼンテーションを行う。 ・各委員・係は提言を受けて感じたことや改善策等について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達がクラスのために貢献していると思うところ、課題については励ましとなるようなアドバイスなど様々な角度から話し合えるように助言する。</li> <li>・生活班の中で一人ひとりが主体的に考えたり、意見を述べたりできるように助言する。</li> <li>・話し合いのエチケットが守られているか確認する。</li> <li>・クラスのために貢献していると思うところや励ましとなるようなアドバイスなど今後の活動につなげられるような内容になるように助言する。</li> <li>・プレゼンテーションでは、生活班でまとめた意見が全体によく伝わるようにはっきりと発表するよう助言する。</li> <li>・今後の活動につなげられる内容になるよう助言する。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・活動テーマ（議題）に関心をもち、意欲的に自分の考えを伝えたり、まとめたりしようとしている。 [観察] [ワークシート]  <b>【思考・判断・実践】</b> ・互いの意見や考えを認め合いながら、意見や考えを述べたり、まとめたりしようとしている。 [観察] [ワークシート]
活動のまとめ 6分	8 自己評価、感想の記入 ・本時の活動に関する自己評価を振り返りカードに記入する。 ・今後の委員・係活動において自分が取り組むべきことを考えさせる。 9 教師の話（諸連絡、講評）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動で、意見や考えを主体的に述べることができたか、互いを認め合いながら取り組むことができたかなど具体的に振り返る。</li> <li>・話し合い活動を通して出てきた意見を参考にして考えさせる。</li> </ul>	<b>【集団活動や生活についての知識・理解】</b> ・よりよい学級づくりに向けて取り組むべきことを自覚し、学級集団の一員として充実した集団生活を築くことの意義について理解している。 [振り返りカード]

## ウ 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
11月11日(月) ～継続して行う	・話し合い活動で検討した、学級集団の一員として「自分が取り組むべきこと」を基に実践していく。	・話し合い活動での確認事項を実践しているかどうかを観察し、適宜、助言や支援をする。 ・生徒の活動意欲が高まるように助言する。	【関心・意欲・態度】 ・自己の生活の向上に自主的に取り組んでいる。 [観察]
11月18日(月) ～22日(金)	・話し合い活動で検討した、学級集団の一員として「自分が取り組むべきこと」を強化週間として実践し、さらに主体的に取り組む態度を高めていく。	・話し合い活動での確認事項を実践しているかどうかを観察し、適宜、助言や支援をする。 ・生徒の活動意欲が高まるように助言する。	【関心・意欲・態度】 ・自己の生活の向上に自主的に取り組んでいる。 [観察] [ワークシート]
11月25日(月)	・強化週間で実践したことを、自己評価、相互評価を振り返りカードに記入し、改善・向上された取り組みなどを認め合い、さらに主体的に取り組む態度を高めていく。	・話し合い活動での確認事項を実践しているかどうかを観察し、適宜、助言や支援をする。 ・生徒の活動意欲が高まるように助言する。	【関心・意欲・態度】 ・自己の生活の向上に自主的に取り組んでいる。 【思考・判断・実践】 ・自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重し考え実践している。 [観察] [振り返りカード]

### (5) 検証授業の成果

#### ア 検証の視点

今回の授業を計画するに当たり、事前に学級活動の時間におけるアンケート調査を実施した。アンケート調査から、本学級では以下の特徴が見られた。

- |   |
|---|
| <p>○「友達のよい面を見付けることができる」割合は、本校全生徒とほぼ同じである。<br/>(本校全生徒 94%、本学級 95%)</p> <p>○「係活動・当番活動に、積極的に取り組んでいる」割合は、本校全生徒より低い。<br/>(本校全生徒 80%、本学級 64%)</p> <p>○「友達のよさを認め、それを伝えることができる」割合は、本校全生徒より低い。<br/>(本校全生徒 81%、本学級 73%)</p> <p>○「私は人のために力を尽くしたい」割合は、本校全生徒より低い。<br/>(本校全生徒 82%、本学級 73%)</p> <p>○「私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる」割合は、本校全生徒より低い。<br/>(本校全生徒 71%、本学級 45%)</p> <p>○「私は学級活動で学級全体に意見を述べるができる」割合は、本校全生徒より低い。<br/>(本校全生徒 39%、本学級 36%)</p> <p>※数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値</p> |
|---|

アンケート結果から本学級は、「自分の役割に責任をもって積極的に取り組む態度がまだまだ養われていない」「友達のよい面を見付けることはできるが、それを伝えることがなかなかできないでいる」ことが見られる。そのため、集団の一員としての自分の役割を意識し、主体的に責任をもって取り組む態度を向上させていくことと、自分の意見や考えを相手に伝

えたり、認め合ったりする機会を意図的にもたせることが必要であると分析した。話し合い活動を通して、自分の役割を意識し、その役割を責任をもって果たすことにより、互いを認め合える効果が期待でき、望ましい人間関係を形成することにつながれると考えた。そこで今回は、以下の視点を検証するために授業を行った。

- 話し合い活動を通して、集団の一員としての自分の役割を意識し、主体的に責任をもって取り組む態度を養うことは、望ましい人間関係を形成することに有効であることを検証する。
- 自己評価と他者評価を意図的に取り入れ、互いに認め合う学級活動を行うことは、主体的に課題に取り組む態度を高めることに有効であることを確認する。

## イ 生徒の変容

検証授業を終え、事後アンケート調査を実施し、事前のアンケート調査と比較したところ、以下の結果が得られた。

- 「友達のよい面を見付けることができる」割合は、5ポイント増加した。  
(本校全生徒 94%、本学級 95%→100%)
- 「係活動・当番活動に、積極的に取り組んでいる」割合は、22ポイント増加した。  
(本校全生徒 80%、本学級 64%→86%)
- 「友達のよさを認め、それを伝えることができる」割合は、13ポイント増加した。  
(本校全生徒 81%、本学級 73%→86%)
- 「私は人のために力を尽くしたい」割合は、4ポイント増加した。  
(本校全生徒 82%、本学級 73%→77%)
- 「私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる」割合は、46ポイント増加した。  
(本校全生徒 71%、本学級 45%→91%)
- 「私は学級活動で学級全体に意見を述べるができる」割合は、19ポイント増加した。  
(本校全生徒 39%、本学級 36%→55%)

※数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の割合の合計値

話し合い活動を通して、一人ひとりが役割と責任を意識して取り組む姿勢が高まった。また、生活班での話し合い活動が互いの考えを理解するのに効果的であった。さらに生活班ごとの話し合いの結果まとめた内容を各委員や係だけに伝えるのではなく、クラス全体に伝え、さらにその内容を今後どのように生かしていくかについて各委員や係が発表した。このことは、クラス全体での互いの認め合いへとつながり、「友達のよさを認め、伝えることができる」生徒が増加した。

クラスの友達から、係や委員会の活動で「よいところ」「クラスのために頑張っているところ」「課題やアドバイス」「提案」を伝えられたことにより、今まで自分では気付かなかった点や改善すべき点などに気付くことができ、検証授業以前よりも自分の役割に責任をもって取り組もうとする意識が高まり、そのことがクラスの友達の役に立つことに気付き、集団の一員としての自覚も深められたようだ。また、発表の時に使ったポスターを教室に掲示したことにより、互いの委員会や係の仕事内容や課題を理解し、共有することで、さらに互いを認め合うことができ、各自の役割を実践していく意欲の喚起にもつながった。

また、検証授業後に一週間の強化週間を設け、検証授業で自覚した自分の果たす役割をさらに主体的に取り組むための実践を行った。強化週間後には再度自己評価、他者評価を振り返りカードに記入させ、改善・向上された取組を認め合う活動を行った。振り返りカードからは、「用具点検を積極的に行った」「小テストの有無などの連絡が確実にになった」「授業の連絡が早くなった」などの改善された点や感想が挙げられた。これらのことから、プレゼンテーションで伝えられたアドバイスや提案を基に、自分の役割を果たそうと積極的に取り組む姿勢を互いが認め合うことで、さらに主体的に取り組む態度が高められたと考える。

以上のことから、検証授業とその後に取り組んだ話し合い活動と認め合う学級活動を通して、望ましい人間関係を形成するために一人ひとりが自分の役割を自覚し、責任をもって主体的に取り組む態度を向上させることができたと考えられる。

以下、生徒の感想の一部抜粋である。

#### 【自分の役割についての感想】

- ・自分はやっているつもりでも、課題に出されるということは、まだできていないのかなと思った。
- ・委員会の活動への意見が出たので、委員会で話し合ってみたい。
- ・初心に戻って見直していきたい。
- ・自分の課題が分かった。
- ・意見を生かして活動していきたい。
- ・先生から言われる前に仕事に取り組みたい。

#### 【話し合い活動・認め合う学級活動についての感想】

- ・意見を伝えることができてスッキリした。
- ・自分の意見をはっきり伝えることができた。また、友達意見を聞くことができたので、おもしろかった。
- ・みんなの考えていることを聞くことができてよかった。
- ・自分の意見をしっかり言うことができた。また、考えを深めることができた。
- ・みんなの考えが分かってよかった。

#### 【強化週間後の認め合う学級活動についての感想】

- ・以前よりも大きな声で号令がかけられるようになった。
- ・小テストの有無などの連絡が確実にあってありがたい。
- ・授業の持ち物を詳しく伝えてくれるようになった。
- ・授業前の準備を忘れずにできるようになった。
- ・自主的に用具の整理をするようになった。

## VI 効果の検証と提言

### 1 効果の検証の概要

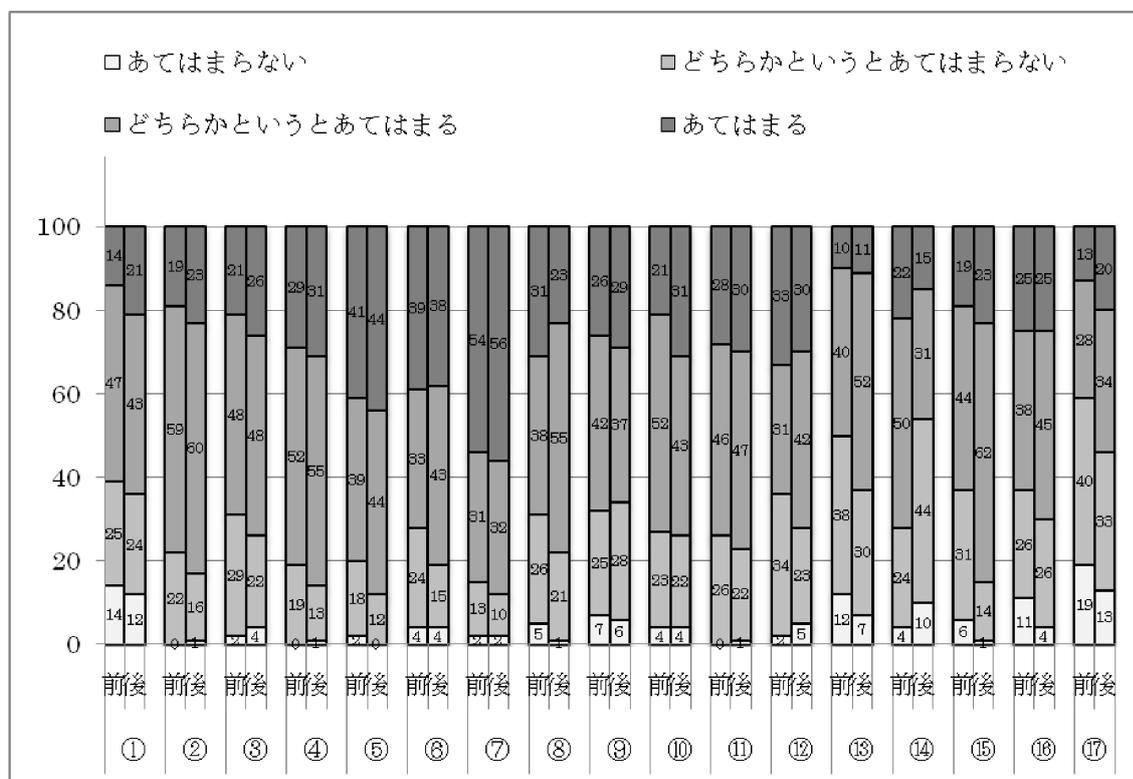
研究仮説に対する実践的研究の結果を考察するために、効果検証を行った。

学級活動に関するアンケート調査は、検証授業を行った3校（中学校第1学年の2学級・第2学年の1学級）の3学級86名で実施した。

### 2 効果検証の分析と考察

検証授業の効果を検証するために、事前と事後で学級活動に関するアンケートの調査をし、比較をした。それぞれの項目で事前と事後の変化を棒グラフで表した(図3)。下から順に「1 あてはまらない」、「2 どちらかというにあてはまらない」、「3 どちらかといえばあてはまる」、「4 あてはまる」となっている。

図3 学級活動に関するアンケート調査の比較



特徴的な事項を挙げてみると、項目⑮「私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる」では肯定的な割合は12ポイント増加し、項目⑭「集団で活動するとき、人任せにしてしまうと感じることもある」では、肯定的な回答の割合は26ポイント減少している。このことは、検証授業の話合い活動において、生徒に役割と責任をもって取り組ませたことが、生徒の積極的な行動につながったと考えられる。

また、項目⑤「友達のよい面を見つけることができる」では肯定的に回答した割合が80%から88%と8ポイント増加し、項目⑥「自分のことを分かってくれる人がいる」では72%から81%と9ポイント増加した。このことから、検証授業の認め合う学級活動を通して、自他

を認め合うことができたと考えられる。その結果として、学級内の活動が活発になり、項目⑧の「係活動・当番活動に、積極的に取り組んでいる」で肯定的な回答が69%から78%と増加したように、生徒は自分の役割に積極的に取り組む態度が身に付いたと考えられる。

生徒が発言を述べる場面に違いがある2つの質問で、項目⑯「私は学級活動で班員に意見を述べることができる」と項目⑰「私は学級活動で学級全体に意見を述べるができる」では、どちらにおいても、生徒は意見を伝えることに関して抵抗感が少なくなったことが読みとれる。このことも、検証授業で班ごとの話し合い活動を工夫して、各自の役割と責任を明確に示したことにより、発言することが苦手な生徒でも役割と責任を果たそうという姿勢が見られるようになり、肯定的な回答が増加したのではないかと考えられる。

以上のように、本研究において検証授業を行った学級では、15項目で肯定的に回答する生徒の割合が増加した。話し合い活動の工夫を図ることで、生徒一人ひとりが役割に責任をもって取り組むようになったと考えられる。また、生徒同士が互いを理解し自分に自信をもつことで、前向きに活動に取り組む姿勢や、学級活動での自分の役割に責任をもって果たそうとする姿勢につながったと考えられる。今回の取組は、生徒が望ましい人間関係を形成することにおいて効果を得られたと言える。

### 3 研究の提言

検証授業の成果及び検証授業後の調査の結果を受けて、研究のねらいに迫る手だてとして有効であった指導の工夫について以下のようにまとめ、本研究の提言とする。

#### (1) 学級活動の内容の工夫

- ア 生徒一人ひとりに役割を意識させる話し合い活動を行う。
- イ 言語活動を重視した認め合う学級活動を行う。

#### (2) 学級活動の具体的な内容と指導方法の整理

- ア 生活班での話し合い活動だけでなく、メンバーの組み合わせを変えた話し合い活動を取り入れることで、一人ひとりが発表者として活動できる方法を工夫する。
- イ 言語活動だけでなく、模造紙等の視覚的効果を用いることで、話し合い活動を活発化する方法を工夫する。
- ウ 互いに認め合う活動が活発化されるように、振り返りシートの活用や話し合い活動で使った模造紙等の掲示を工夫する。

## VII 研究の成果と今後の課題

本研究は、「望ましい人間関係を形成するために、生徒一人ひとりが主体的に課題解決に取り組もうとする態度を育てる学級活動の工夫」を研究主題とし、「生徒一人ひとりが役割を果たし、認め合う学級活動の工夫を教師が行い、生徒が主体的に課題解決に取り組む態度を養うことで、生徒は望ましい人間関係を形成できるであろう。」という研究仮説に基づき、話し合いを中心とした学級活動を設定・実施したものである。本研究の成果と今後の課題は以下のとおりである。

### 1 研究の成果

#### (1) 生徒同士の人間関係の向上

事後アンケートから、「互いのやる気を見ることができた。これからの練習に生かしたいです。」「合唱コンクールに向けての正直な皆の気持ちが聞けてよかった。団結できるような気がします。」「友達の意見を聞き、新たに『あ、それもいいな』と思うことが多々あり、自分自身いい経験になりよい取組でした。」という意見が得られた。普段、話をする生徒同士はもちろんのこと、そうでない生徒同士でも話し合い活動を行ったことにより他者理解が深まり、生徒同士の人間関係が向上したと考えられる。

#### (2) 生徒の学校生活に対する積極性の向上

事後アンケートから「またこの活動を行いたい。」「すべての活動が楽しかった。」と回答した生徒や、「またやってください。」と直接担任にそのことを頼みに来る生徒もいた。話し合いのテーマを変えて再度行った学級活動においては、一回目よりも活発な話し合い活動が行われ、生徒の取組に対する積極性が見られた。

また、普段の学級活動の取組後の生徒の様子と今回の検証授業実施後の生徒の様子を比べると、今回の方が生徒の活動により積極性が見られる場面が多かった。これは、合唱コンクールに向けた目標や定期考査に向けた目標、委員会や係活動を改善する目標といった生徒にとって身近な目標を達成するために、自らの役割を自らが決めたことで、それを果たすための取組に主体性・積極性が向上したと考えられる。

以上のことから、生徒の学校生活に対する積極性が向上したと考えられる。

### 2 今後の課題

#### (1) 一人ひとりに役割を意識させる活動と認め合う学級活動のさらなる充実

本研究では、話し合い活動やその後の活動において、生徒一人ひとりが役割を意識できる工夫に努めた。今後は生徒が自ら役割を意識することができる学級活動の工夫のため、研究を深化させていくことが必要である。

また、認め合う学級活動においても、役割を果たしたことを認め合ったり、プレゼンテーションを行って認め合ったり、複数の方法で認め合う学級活動を提示した。今後も生徒同士が互いに認め合う学級活動について、研究を深化させていくことが必要である。

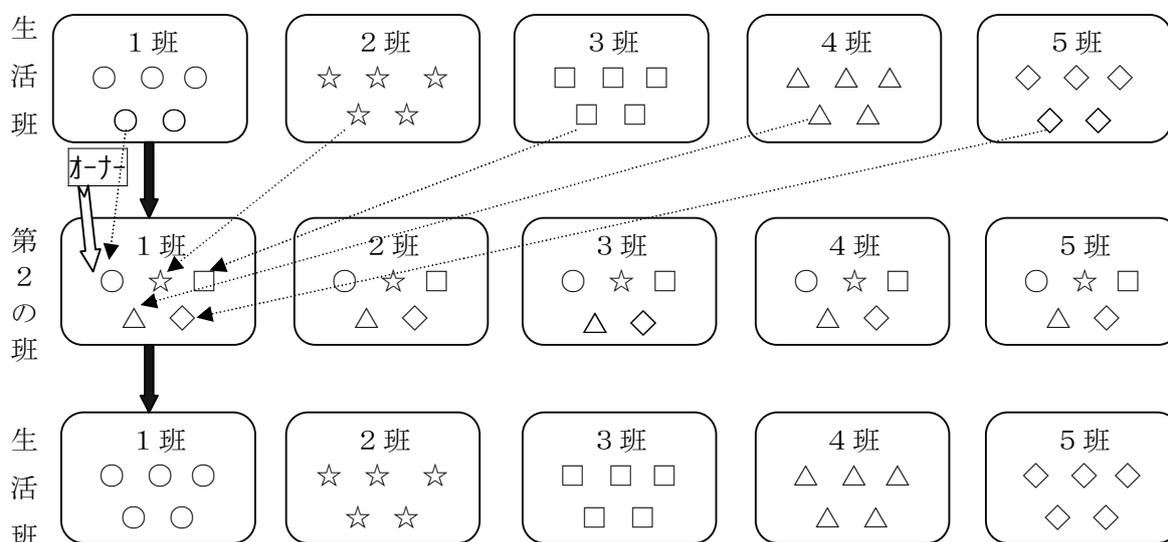
## 補足資料 話し合い活動の方法について

### ○ 話し合い活動の手順

- ①各生活班の中で、テーマについて話し合いを行う。話し合いで挙げた意見や情報を、お土産のように、第2の班での話し合いの際に伝えるという役割をもって話し合いを進める。
- ②各生活班にはオーナーとして一人残り、それ以外のメンバーは第2の班に移動し、メンバーの組み合わせを変えて話し合いを深める。
- ③最後に全員が元の生活班に戻り、第2の班で得た意見や情報を基に、更に話し合いを進める。

### ○ 話し合い活動の注意点

- ・オーナーは司会を行いながら、前の班で話した内容を新しい班のメンバーと共有し、それを聞いたメンバーも前の班で得た情報を伝えたり、新たな意見を述べたりして話し合いを深める。
- ・気付いたこと、発見したことなどは、模造紙に自由に書き込みをしてもよい。



### ○ 話し合い活動の効果

組み合わせを変えた新しい班のメンバーと意見を交換するときに、生活班の話し合いの中で挙げた意見や情報を伝えるという役割があるため、生徒は話し合い活動に主体的に取り組むことができる。また、日頃の生活や学級活動等で話し合いに積極的に参加していない生徒も、役割を果たそうとする態度が見受けられ、自分の役割に責任をもって主体的に取り組む態度を向上させるのに有効であると考えられる。

また、少人数のグループでの話し合いなので、普段あまり話をしない友達に対しても自分の意見を発言しやすい。さらに、模造紙へ書き込みをすることでも自分の意見を伝えることができる。模造紙への書き込みは、メンバーの組み合わせを変えた際に、新たな話し合いのきっかけになるという効果もある。メンバーの組み合わせを変えることで、生活班だけで話し合うよりも新しいアイデアが生まれやすくなり、さらに、短時間で多くの人との意見交換や情報の共有ができることから、あたかもクラス全員が話し合っているような効果が得られる。また、話し合い活動を行った後の活動への意欲や主体的に課題解決に取り組む態度を高めるのに効果的であった。

## 平成25年度 教育研究員名簿

### 中 学 校 ・ 特 別 活 動

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
台東区	駒 形 中 学 校	主任教諭	猪 越 孝 一
江東区	深 川 第 七 中 学 校	主任教諭	倉 沢 千 恵 子
練馬区	石 神 井 東 中 学 校	教諭	◎藤 本 謙 一 郎
三鷹市	第 四 中 学 校	教諭	熊 谷 智 代
昭島市	昭 和 中 学 校	主任教諭	岸 良 太 郎

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 佐藤 正吾

平成25年度  
教育研究員研究報告書

中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

（平成25年度第193号）

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社